

生駒市立病院：徳洲会と来月協定 改定案を市推進委承認

毎日新聞 2013年05月29日 地方版

生駒市病院事業推進委員会（関本美穂委員長、9人）が27日夜あり、2015年春の市立病院開院を目指す市が、病院指定管理者の医療法人徳洲会と結ぶ基本協定書改定案を承認した。6月の早い時期に正式に締結する。

改定では、市が減価償却費に充てる指定管理者負担金に関して細かく規定した。負担金は開院から4年間は猶予され、19年度から支払う。市は試算で、建設工事費（予定価格約82億円）の落札率を85%（落札額約70億円）と想定。徳洲会側の要望を受け、病院建物の償却期間29年に合わせて毎年の負担額をならしており、年負担金は約2億円になる。

一方、徳洲会側は収支計画で「実態に合わせて見直した」として、1日平均外来患者数を昨年9月時点から大幅に下方修正。初年度を300人から210人、10年目を633人から319人などに変更した。【熊谷仁志】